TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

# エフェソ人への手紙―恵みのスペクトル　私たちは神を見るのです

## エフェソ人への手紙 2章 1-10

2025 年 8 月 23 日 & 24 日
ジェシー　マーク　セザリオ 牧師

**ご挨拶**
TBC ウエスト トウキョウ、TBC 三郷、スバおよびトンガ・バプテスト教会を含め、私たちと共に礼拝している皆さんにごあいさつ申し上げます。父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平安が、皆さんと共にありますように！**祈りましょう**

**初めに**
1990 年、私が中学校を卒業した年に『レナードの朝』（Awakenings）という映画が公開されました。この映画は実話をもとにしており、精神科病棟に長年入院していた患者たちの物語です。彼らはまるで「歩く死人」のようで、何十年もの間、全く動かず、話さず、周囲と交流することもなく、時間が止まったかのような状態で過ごしていました。病院のスタッフや他の医師たちは、彼らをまるで使い古されたマネキンのように扱っていました。
そんな中、新しく赴任してきたセイヤー医師が彼らの担当となります。患者たちを診察していく中で、彼は「彼らは内側では生きている」と確信するようになります。周囲からは批判されましたが、セイヤー医師は彼らの症状を改善できそうな薬を見つけます。彼はその薬を患者の一人、レナードに投与します。するとレナードは 30 年ぶりに「目覚め」、再び歩き、話し、人生の小さな喜びを新鮮な気持ちで味わうようになります。

今日も引き続き、「恵みのスペクトル」というシリーズを続けていきます。エフェソ人への手紙 2 章を学びながら、神が私たちのうちに働かれ、新しい命、新しい目的、そして新しい現実へと私たちを目覚めさせてくださることを見ていきます。私たちは、自分がどこから来たのかという事実に向き合うと同時に、何のためにここに生かされているのかという目的にも向き合うことになります。
それでは、見ていきましょう…。

**生きているが死んでいる**
「[1]さて、あなたがたは、過ちと罪とのために死んだ者であって、[2]かつては罪の中で、この世の神ならぬ神に従って歩んでいました。空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な子らに今も働く霊に従って歩んでいたのです。[3]私たちも皆、以前はこういう者たちの中にいて、肉の欲のままに生き、肉とその思いとの欲することを行い、ほかの人々と同じように、生まれながらに神の怒りを受けるべき子でした。」
パウロはここで、私たちと私たちのために神がしてくださったことについて、短くも力強い宣言から始めます。彼は過去形で語ります。「あなたがたを生かしてくださった」
しかし、すぐに彼は私たちを深い思索へと導きます。では、私たちはその前は、いったいどんな状態にあったのでしょうか？パウロは私たちを過去に引き戻し、私たちが生かされる前に、どれだけ死の状態であったのかを描き出します。ここで大切なのは、パウロが何を語っているのかだけでなく、なぜそれを語るのかに注目することです。
パウロの目的は、私たちにこう理解させることです。エフェソの信徒への手紙 1 章 18 節「心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか、」
そして、これを私たちが理解するために、パウロは私たちがどこから来たのか―すなわち「罪過と罪によって死んでいた」ことについても語ります。
パウロは、私たちすべてを裁くために指摘しているのではありません。むしろ彼は、私たちが共有している過去を思い起こさせようとしているのです。私たちは皆、神の栄光に達することができなかったということを知ってほしいのです。パウロ自身も含めてです。実際、テモテへの手紙第一の中でパウロは、自分を「罪人のかしら」とまで呼んでいます。
ところで、「罪過（trespass）」と「罪（sin）」の違いをご存じでしょうか？
「罪過」にあたるギリシャ語は *paraptóma*（パラプトーマ）で、多くの場合、意図的または自覚的な罪の行為を意味します。文字通りには「踏み外し」という意味です。たとえば、本来入ってはいけない場所に足を踏み入れるようなことです。境界線を越えてしまうような行為です。
一方、「罪」にあたる *hamartia*（ハマルティア）は、より一般的な罪の総称です。その語源的な意味は「的を外すこと」です。これは意図的な悪事を指すこともありますが、もっと広い範囲の罪を含みます。つまり、意図的であるかどうかに関わらず、誤り、失敗、不完全さなどをも指します。それは、積極的な選択による場合でも、人間の根本的な欠陥による場合でも、神の基準―神の物差し―に達しないことを意味します。
つまり、「罪過」とは境界線を踏み越えてしまうことで、「罪」とは神の定めた的に届かなかったことなのです。
それが私たちです。罪過を犯す者であり、罪人である者。両方なのです。そこから逃れる道はありません。英語のことわざでいうところの「一日遅れで一ドル足りない」です。つまり、「手遅れな上に、それを償う手立てもない」ということです。
私たちは、神の律法を破っただけでなく、それを償うために自分から差し出せるものは何ひとつありません。私たちは皆、同じ状態から始まりました。罪において一つであり、その結果、霊的な死においても一つでした。これは肉体の死のことではありません。皮肉なことに、この聖句によれば、その中でも多くの活動が行われているのです。
私たちは、この世の流れと、空中の権威を持つ支配者に従って歩んでいました。
「この世の流れ」という言葉は、他のすべての人々が歩んでいる道を視覚的に思い描かせます。イエスはこう言われました、
「[13]狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そして、そこから入る者は多い。[14]命に通じる門は狭く、その道も細い。そして、それを見いだす者は少ない。」マタイによる福音書 7 章 13－14 節

**あなたは今、どの道を歩んでいますか？**
というのも、この世の流れは、自然な、つまり霊的でない人の内に働く悪魔の霊と一体化しているからです。生かされる前の私たちは、歩み、行動し、自分の欲望を満たすことにふけっていました。これこそが、私たちが信じ込んでいた大きな嘘です。つまり、「人生の快楽を感じていれば、生きている」という思い込みです。
箴言 26 章 11 節にはこうあります。「[11]犬が自分の吐いたものに戻るように愚かな者は自分の無知な行いを繰り返す。」

**ぞっとする例え**
ここで、かつて私たちが身を置いていた、この汚れのスペクトラムを鮮明に思い起こさせる例えをお話ししたいと思います。ご存じの方もいるかもしれませんが、私はロードアイランド州で育ちました。あちらの冬はとても厳しく、1990 年に映画『レナードの朝』が公開されたときには、気温がマイナス 16 度まで下がったこともありました。
私たちはピットブル犬を飼っていて、私はその子を「キティ」と名付けました…名前の由来はまた別の日にお話ししますね。私が「外に行きたい？」と聞くと、彼女がいつもとても嬉しそうに、興奮している様子を思い出します。でも心の中ではいつも、「なんでそんなに嬉しいの？外は凍えるほど寒いのに！」と思っていました。きっと、彼女は一日中家の中にいることから解放されたいだけだったのでしょう。外に出ると、鳥のように自由に―まあ、実際にはフェンスにつながれていましたが―楽しそうにしていました。けれどしばらくすると、彼女が吐いている音が聞こえてくるのです。これはしょっちゅうありました。

なぜかというと、彼女にはある汚らしい習性があったからです。何かを食べるんですが…いや、自分の吐瀉物ではありません。実は、別の「自分のもの」でした。ええ、分かっています。これが、神が私たちを見て感じておられたことです…。そして私たちも、キティと同じように、そのことがまったく理解できなかったのです。それはとても美味しそうに見えるのです。

私はまだ小さかったので、「どうしてこんなことをするのだろう？」と不思議で仕方ありませんでした。キティには十分な食べ物がありました。ドライフードもウェットフードもあり、清潔な水も、暖かくて快適な家もありました。それでも、彼女は毎日のように、それをしていたのです。それが、かつての私たちの姿です。おそらく、神が私たちを見て感じておられた気持ちに近いでしょう。私たちはそれほど愚かで、病んでいて、それを日々繰り返していたのです。

分かりますか？ 私たちは単に罪人であっただけでなく、他の生き方をまったく知らなかったのです。完全に希望のない状態でした。

そして実際のところ、事態はさらに悪かったのです。

聖書はこう言っています「14:自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。」コリントの信徒への手紙一 2 章 14 節

ですから、超自然的に生かされることがなければ、私たちはパウロが言うように、本質的に「怒りを受けるべき子ら」なのです。空中の権威を持つ支配者の霊に従って生きている者たちは、「いのちの書」に名が記されることのない者たちです。つまり、サタンと共に火の湖へ向かっているということです。「1:あなたは、かたくなで心を改めようとせず、怒りの日、すなわち、神の正しい裁きの現れる日に下される怒りを、自分のために蓄えています。」ローマの信徒への手紙 2 章 5 節

これが現実です。希望はなく、自分では何もできない…。完全に間違っていて、完全に無力で不潔な状態です。

しかし、神は「4:しかし、神は憐れみ深く、私たちを愛された大いなる愛によって、5:過ちのうちに死んでいた私たちを、キリストと共に生かし―あなたがたの救われたのは恵みによるのです―、6:キリスト・イエスにおいて、共に復活させ、共に天上で座に着かせてくださいました。7:それは、キリスト・イエスにおいて私たちが賜った慈しみにより、神の限りなく豊かな恵みを、来るべき世々に現すためでした。」

皆さん、ここにある御言葉は、私たちにとってすべてを意味する三つものを示しています。「あわれみ」と「愛」、そして「恵み」です。

まず覚えていただきたいのは、このあわれみも、この愛も、神ご自身のものだということです。私たちの神は豊かな神です。そして、その豊かさは、私たちが最も必要としている「あわれみ」において豊かなのです。

さらに、神の愛は、よくある平凡な愛ではありません。これは、神が私たち一人ひとりを愛してくださる「偉大な愛」なのです。

そして、パウロは私たちにこう示しています。「神の力による共同の出来事」であると。私たちは共に生かされ、共に復活にあずかり、キリストと共に天の御座に座らせられるのです。そして、この「キリストと共に座らせられている」という事実を聞いたとき、私たちは第一章に戻らずにはいられません。パウロはこう語っていました。

「19:また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができますように。20:神は、この力ある業をキリストの内に働かせ、キリストを死者の中から復活させ、天上においてご自分の右の座に着かせ、21:この世だけでなく来るべき世にある、すべての支配、権威、権力、権勢、また名を持つすべてのものの上に置かれました。」

それこそが、私たちが座らされている場所なのです。キリストと共に、天の御座に座しているのです。そして、このキリストと共に座していることによって、私たちは次のものを与えられています。

**永遠のいのち**「座る」ということは、安息と完成を意味します。私たちは、自分の地位を守るために働き続ける必要はありません。私たちの地位は天においてすでに確かなものとされ、永遠に生きるのです。御言葉が語るように、「来るべき世においても」神の恵みの豊かさが、その優しい御心をもって、私たちに現されるのです。

**復活の力**

「共に復活させられた」とは、イエスを死からよみがえらせたその同じ力を、私たちも受けているということです。この力によって、私たちは新しいいのちに生きることができ、神があらかじめ備えてくださった良いわざを行う力が与えられるのです。

**神の御座へのアクセス**

キリストと共に座っていることは、父なる神への直接のアクセスを持っているということです。私たちは「キリストのうち」にあるがゆえに、イエスへの信仰を持ったその瞬間から、今も永遠に、神の御前に進み出ることができるのです。

**権威の共有**

エフェソの信徒への手紙1章 21～22 節は、キリストが「支配、権威、権力、権勢、また名を持つすべてのものの上に」座しておられると言っています。もし私たちがキリストと共に座っているなら、その権威をも共有しているのです。

だからこそ、私たちは罪にも悪魔にも勝利するのです。何ものも、キリスト・イエスにあって示された神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

覚えておきましょう。私たちは、永遠のいのちと確かな救い、復活の力、そして大胆に父なる神に近づくことのできる恵みを持っています。しかもそれらは、イエスを信じた瞬間に与えられているのです。

そして 7 節は、私たちに与えられた恵みについてさらに語ります。神がその優しい御心をもって私たちに与えてくださった恵みの豊かさは、聖書の他のどの箇所とも異なる表現で記されています。なぜなら、キリスト・イエスにあって私たちが受けた恵みは、一度きりの出来事ではないからです。むしろここでは、この恵みが「来るべき世においても」、つまりこれから、私たちに注がれ続けることが示されているのです。

皆さん、キリスト・イエスのうちにある私たちにとって、これは何を意味するのでしょうか？それは、恵みに恵みが重ねられて与えられているということです。主は、その恵みによって、あわれみと愛を私たちに注いでくださいます。しかも、それはキリストにあって、いつまでも、いつまでも、絶えることなく私たちに向かって流れ続けるのです。

父なる神は、その恵みにおいて、「極端」とも言えるほどに豊かなお方です。なぜなら、この恵みは永遠にわたって私たちに与えられ続けるだけでなく、その恵みが、全被造物の前に示されるからです。

おそらく、天の御使いたちは、その恵みを受け続ける私たちを見つめるでしょう。ちょうど、キリストが誕生されたとき、彼らが驚きと喜びをもってこう叫んだように「いと高き所には栄光、神にあれ地には平和、御心に適う人にあれ。」ルカによる福音書 2 章 14 節このような賛美の声が、来るべき世においても、永遠に、永遠に、繰り返し響き渡るのです。

**では、どうしますか？**

考えてみてください。あなたの子どもに、誰かが何かをプレゼントしてくれたときのこと。でも、その子がただポカンと立ち尽くし、何の反応もしない……そんな場面を。私は時々思うのです。礼拝の場での私たちが、まさにそうではないかと。ただ宙を見つめ、ポカンとして立ち尽くしている……そんな状態で主の前に立ってはいないでしょうか。知っていますか？御使いたちは、私たちが受けている恵みのゆえに、主を礼拝するのです。彼ら自身が受ける恵みではありません。私たちに与えられた恵みを見て、彼らは礼拝するのです。

では、どうですか？―それが、あなたの全ての応答でしょうか？

願わくは、今日この後にあなたが主を賛美するとき、その歌声が、小さな子どもが不器用にプレゼントを受け取ったときのような、ぎこちない反応になりませんように。

なぜなら、こうして共に教会に集うこの瞬間こそが、御言葉が語っている通り、私たちがこの恵みに対して心から応答すべき時だからです。

パウロはここで、私たちに「かつての自分を思い出せ」と語っています。どこから来て、そしてどこへ向かっているのか―それを忘れてはならないのです。

変えられる前の私たちは、神にとって忌まわしい存在でした。罪深い行いの中を歩く「生ける屍」であり、他のすべての人と同じく、サタンに従い、神の怒りと神から引き離されるよう定められていた者たちだったのです。

でも……わかります。会ったこともない方を愛し、礼拝するのは、確かに難しいことかもしれません。

**「行いによらず、恵みによって」**

「[8]あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。[9]行いによるのではありません。それは、誰も誇ることがないためです。10:私たちは神の作品であって、神が前もって準備してくださった善い行いのために、キリスト・イエスにあって造られたからです。それは、私たちが善い行いをして歩むためです。」

皆さんの中には、この 8～9 節を聞いたことがある方、あるいは暗唱している方も多いでしょう。

実は、この箇所、特に 8 節と 9 節、は長年、議論の的となってきました。「神からの賜物」とは何を指すのか？　それは恵みなのか、信仰なのか、それともその両方なのか？

簡単に答えるなら、文脈上、それらはひとまとめにされており、救いのプロセス全体を指していると考えるのが自然です。けれども、聖書をもう少し深く調べてみると、「その賜物が何であるか」を明確に述べている箇所があるかどうかを探すことができます。もし「その賜物が何であるか」を正確に示している箇所があれば、それほど助けになるものはありません。

そして、新約聖書全体でただ一か所、賜物をはっきり何かと同一視している箇所があるのです。それが、ローマ 6 章 23 節―おそらく、これも皆さんが覚えている御言葉でしょう。「罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命なのです。」さらにローマ 10 章 17 節には、信仰がどこから来るのか、最も直接的に説明している言葉があります。「それゆえ、信仰は聞くことから、聞くことはキリストの言葉によって起こるのです。」

パウロがエフェソの教会にこれを語っている理由は、彼らに「ユダヤ人であることや律法を守る行いによって救われるのではない」ことを示すためです。

永遠のいのちと救いは、行いによるのではなく、信仰によって与えられ、そして信仰によって保たれるのです。パウロは、ユダヤ人も異邦人も、キリスト・イエスにあって一つであることを示そうとしています。そしてその一致を心に刻んだ上で、パウロは彼らに神の恵みと、キリストにあって与えられた祝福を知ってほしいと願っています。その恵みこそが、教会を愛し、教会の一致のために働く「愛の行い」へと私たちを動かすのです。その一致ある姿が、外の世界に対する証しとなります。パウロは第 2 章でこう語ります。教会は、ユダヤ人と世界のその他の人々との間にある「隔ての壁」を取り壊すためにあるのだと（14～16 節）。ユダヤ人の視点から見ると、彼らはユダヤ人以外のすべての人を、永遠のいのちも救いも含めた神の約束の外にある者と見なしていたからです。

第 2 章の 21～22 節はさらにこう示しています。教会は、国境を超え、民族を超えた「多国籍」かつ「多様な」神の住まいであるべきだ、と。これは、神が初めから願っておられたことです。すなわち、人類すべてが、神の国にあずかり、神の民のひとりとなることが神のご計画なのです。

だからこそ、パウロは 5 章 8 節でこう語ります。「あなたがたは、以前は闇でしたが、今は主にあって光となっています。光の子として歩みなさい。」

では、お聞きします。あなたは光の子どもでしょうか？この世を歩むとき、自分を「光の子ども」と呼べますか？そして、外の世界に向かって、主の証人として歩んでいますか？あなたの周りにいる人々は、あなたを通して神を見ることができるでしょうか？

ローマ 10 章にある招きと、その招きの範囲を思い出してください。「主の名を呼び求める者は皆、救われる」のです。（13 節）

そして続く論理を見てください。

「それでは、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう。」（14 節）

聞かなければ、知ることはできません。見なければ、信じることはできません。では、あなたは主のために証人となる覚悟があるでしょうか？

救いに関してよくある誤解のひとつは、「それは自分と主との一対一のやりとりにすぎない」というものです。

しかし、そうではありません。もし、あなたが福音を聞いたあの日、その人が別のことをしていて、福音を語らなかったら、あなたは今どこにいたでしょうか？

では、次にあなたが福音を語るその人について考えてみてください。その人はどこにいることになるでしょうか？それは、あなたのすぐ隣にいる人かもしれません。あなたの家に住んでいる人かもしれません。あるいは、もしかしたら、あなた自身かもしれません。主から私たちが受けている「恵みの限りない豊かさ」によって、かえって「本当にそんなものがあるのだろうか」と信じられなくさせてしまうことがあるのです。

**まとめ**

私たちが陥りやすい最大の神学的な罠のひとつは、「救われないのは、その人が救いに値しないからだ」と人を責めてしまうことです。

ヨブ記を思い出してください。告発者であるサタンがヨブという一人の人に出会います。物語の冒頭、神ご自身がヨブについてこう言われます。「この人は完全で、正しく、神を畏れ、悪を遠ざけていた。」

するとサタンは神にこう反論します。ヨブがそんなに正しく、神を恐れているのは、あなたが彼を祝福しているからだと。

そこで主は、サタンに権限を与え、サタンの望み通りに神が間違っていることを証明しようとするのをお許しになります。では、サタンは何をしたでしょうか？彼は、初めから人殺しであった者として、剣でヨブのしもべたちを二度も殺します。稲妻のように落ちた者は、再び稲妻でしもべたちを打ち滅ぼしました。そして再び、「空中の権威を持つ者」がヨブの息子の家を吹き倒し、彼と兄弟姉妹たちをすべて殺してしまいました。しかし、この時点ではヨブはまだ動じません。ところが、やがて彼は、自分が犯していない罪を一つひとつ挙げながら、「どうして神は自分を不当に罰するのか」と神を責め始めます。

どうして、神は、罪を犯していないヨブにこんなことをなさるのでしょうか？

ヨブの問題は、「罪を犯していない」かどうかではありませんでした。問題は、**神の力と主権を本当に信じていなかった**ということです。ヨブが罪人であるというサタンの言い分が正しかったかどうかは重要ではありません。私たちは「すべての人は神の栄光を受けられなくなった」と知っています。本当に重要なのは、ヨブが**神をどう見ていたか**ということでした。

そしてヨブは最後にこう言います（ヨブ記 42:5）。

「私は耳であなたのことを聞いていました。しかし今、私の目はあなたを見ました。」

では、あなたはどうですか？あなたは神を見ていますか？

なぜなら、あなたは自分が「神」と呼ぶもののように行動し、あなたの神が人を見るように人を見るからです。あなたの神は、憐れみと愛と恵みの神ですか？それとも、罪人を告発する者ですか？

あなたが人を神の恵みのまなざしで見るとき、あなたは自然に福音を分かち合えるようになります。無理に自分を説得して伝えようとする必要はありません。なぜなら、あなたがその人を神の目で見ているからです。

**招き**

映画『レナードの朝（Awakenings）』は、興味深く、心を動かされる作品ですが、実際の出来事をそのまま描いてはいません。実際の話では、セイヤー医師が発見した薬の効果は一時的なもので、しばらくすると効き目が切れ、患者たちは再び静止したまま、まるで死んだような状態に戻ってしまいました。しかし、神の恵みはそうではありません。私たちは、救われた状態を自分で維持する必要はありません。それを保つために努力し続ける必要も、何かをする必要もありません。一度救われた者は、永遠に救われた者です。

もしあなたが、この先の世々にまで続く神の憐れみと愛と豊かな恵みを信じるなら、そしてその恵みが御子イエス・キリストによって与えられ、永遠のいのちのためにイエスを信じるなら、あなたも本当に生きる者となります。十字架でのイエスの御業によって、あなたの罪は赦され、人生は変えられます。もう二度と、自分がかつてどこから来たかを振り返る必要はありません。そして、あなたはヨブのように、やがて来る時に神を見、神を知ることになるでしょう。神を信じたその瞬間から、あなたは常に愛されていると感じ続けます。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg3525jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月7日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
霊的に成長するために
9月21日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方

★クラス 210
スモールグループトレーニング
10月4日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

## 奉仕者募集中！

### 日本語訳レイアウト&印刷
（女性 3 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org